

リラとエルドアン

トルコのエルドアン大統領がついにやってしまった。彼の最大の政敵で国民の人気の高いイスタンブール市長を逮捕した。次の大統領選の候補として野党からの出馬が決まる直前だった。

トルコリラは直後、対ドルで 11%ほど急落し、株価も暴落した。当局はリラ防衛のためドル売りリラ買いの介入を 120 億ドルほど実行し、リラの翌日物金利を引き上げた。ドルリラはその後下落分の半値ほどを戻し、直近では 37.98 水準で推移している。一時ドルリラは 40 を超え、史上最高値(リラの最安値)を記録したが、現在も最安値水準にあることには変わらない。

エルドアンは長い間確執が続いたクルド系の勢力との歴史的和解が進行中だっただけに、新たな政治的対立を再燃させるような行動はサプライズだった。もっとも政敵を牢屋にぶち込むのは珍しくなく、和解進行中のクルド系勢力のトップも現在収監中だ。

冒頭エルドアンがついにやってしまったと言ったが、実は市場では別の件を想定していた。エルドアンはインフレ抑制のためには利下げが必要との考えで、それに反した中銀総裁などを首にしてきた。結果としてリラの下落、インフレの一層の高騰をもたらしたが、一昨年の選挙後新しい財務大臣、中銀総裁などの経済チームに政策を委ねることになった。インフレ抑制のため緊縮財政や利上げなど、当たり前の政策に切り替わった。それでもしばらくはインフレや通貨安は止まらなかった。金利は一層引き上げられた。

エルドアンがいつまで我慢できるか、市場の関心だった。特に選挙が近くなれば、我慢も限界になる可能性が高まる。そしてバラマキや利下げのために経済チームを再び解散する。そうなればついにやってしまった、になる。

ところが経済チームの政策が実を結び始めインフレはピークを過ぎ、今年 2 月のインフレ率は 39.1%と 40%を割ってきた。50%台まで上昇した政策金利も今年 3 月には 42%台へと低下した。リラの反転のチャンスもあったが、中東の緊張に関連した資本の流出もあり、これからという状況だった。

今回の政治状況の変化でヘッジファンドがリラの資産やリラを大きく売った。そこで経済チームの面々が海外投資家などに連絡してこれまでの政策の継続性を訴えトルコへの投資を促した。

とは言うものの、これでリラへの投資が復活するとも思えない。エルドアンはトランプやプーチンの振る舞いに刺激を受けたのかもしれないが、トルコが失った信用の回復には時間がかかるだろう。